

洋表層（海面から深度数百mまでの領域）でも、顕著な水温の正偏差や負偏差の東進は見られない。このため、4月から5月に見られた監視海域における海面水温正偏差の増大は一時的である可能性が高い。
予測：エルニーニョ監視海域の海面水温は、夏に基準値（1961～1990年の30年平均値）に近づき、その後もほぼ基準値に近い値で推移するとみられる。秋までにエルニーニョ現象が発生する可能性は低い。

3. 数値予報

【熱帯】3か月平均：降水偏差：西部太平洋熱帯域で負偏差だが、フィリピンの北東海上は正偏差。
また、太平洋赤道域の150°E～180°で正偏差強い。インド洋はベンガル湾やアラビア海で正偏差。また、大西洋熱帯域で正偏差強い。**200hPa速度ポテンシャル偏差**：赤道域150°E～180°で発散の偏差。発散の中心は南半球寄り。海洋大陸では発散弱く、インド洋も弱い。**200hPa流線関数偏差基**：南シナ海から日本の南で高気圧性循環、その北は低気圧性循環が東西に広がる。**850hPa流線関数偏差**：インド洋から日本の南にかけ高気圧性循環、その北で低気圧性循環。

月別の状況：7月は、インド洋西部で発散が強く、日本付近も負偏差。200hPa、850hPa流線関数偏差も日本の南で高気圧性偏差だが、日本付近には低気圧性偏差広がる。8、9月は、発散は3か月平均と同様だが、200hPa、850hPa流線関数偏差は日本付近で高気圧性偏差。

【中高緯度】3か月平均：Z500：極付近は正偏差だが、東シベリアからオホーツク海は負偏差。日本付近は正偏差に覆われる。**T850**：オホーツク海は負偏差だが、日本付近は正偏差。**PSEA**：日本の南の太平洋高気圧は強く、東日本以西は正偏差が、北日本以北は広く負偏差広がる。8、9月は日本付近正圧も弱い。

月別の状況：**Z500**：7月は本州以北が負偏差に覆われるが、8、9月は日本付近正偏差で、オホーツク海は負偏差。**T850**：7月に北海道が負偏差となる以外、日本付近は正偏差。日本付近は北日本を中心には負偏差がる。8、9月は日本付近正圧も弱い。

【高偏差確率】3か月平均：低緯度が広く正の高偏差で、東日本以西が正の高偏差確率50%以上。月別の状況：7月は北海道に負の高偏差確率50%以上がかかるが、正の高偏差は日本の南。8、9月は本州付近に正の高偏差確率50%以上がかかる。

【指數ヒストグラム】各種循環指數：**沖縄高度や小笠原高度、極東中緯度高度**は高指數だが、極渦指數も高指數。**EOF1**：負側に偏る。固有ベクトルのパターンは北極付近からグリーンランドにかけてとヨーロッパや北米大陸が逆位相で変動するパターン。ヨーロッパや北米大陸以外は極付近と同じ位相で変動。**EOF2**：正側に偏る。北極付近からアラスカにかけてとその他の領域が逆位相で変動するパターン。**EOF3**：ほぼ0（ゼロ）。西シベリア、東シベリア、カナダ北部とその周辺が逆位相で変動するバーン。

【時系列】T850気温と指數の予想 **T850**：北日本は、高温から7月に並まで下がるが、その後も高温傾向。東日本以西は高温傾向続くが、その中では8月が低極。**FEZ1**：7月に一時低指數となるが、8月並、9月は高指數。**東方海上高度**：7月に低指數となるが、8月以降高指數傾向。**オホーツク海高氣圧**：7月前半に低指數だが、その後並程度。**沖縄高氣圧**：高指數傾向が続く。

経年変化（指數3か月平均） **FEZ1**：2003年は低指數だが、近年並へ高指數。予報期間は並。**オホーツク海高氣圧**：2000年以前上高度：近年高指數傾向から昨年は若干低指數に。予報期間は並。**オホーツク海高氣圧**：2000年は低指數だったが、は年々の変動が大きかったが、ここ数年並傾向で予報期間も並。沖縄高氣圧：2000年は低指數だったが、近年は並へ高指數。予報期間も高指數。**EOF1**：1998年に大きく低指數となつたが、近年は並を中心に変動。予報期間は低指數。**EOF2**：近年は高指數傾向で、予報期間も高指數。

対流圈北半球層厚換算温度：2004年の夏に負偏差となつた他は近年正偏差が続いている、予報期間も

正偏差。対流圈中緯度層厚積算温度：近年正偏差となることが多かったが、今年に入つて月々の変動
が大きい。予報期間も負偏差から正偏差へ。

4. 予報の根拠とまとめ

【3か月平均】 太平洋赤道域の海面水温はほぼ全域で正偏差が見られ、4月から5月には監視海域の海面水温の正偏差が増大した。しかし、海洋表層では顕著な水温の正偏差や負偏差の東進は見られず、正偏差の増大は一時的と考えられる。エルニーニョ監視海域の海面水温は、夏に基準値に近づき、その後もほぼ基準値に近い値で推移するとみられ、秋までにエルニーニョ現象が発生する可能性は低い。このため、太平洋赤道域の海面水温の状況からは予報期間が冷夏等の不順な天候となる可能性は小さい。200hPa速度ボテンシャル偏差では、太平洋赤道域の150°E~180°で、強い偏差は南半球寄りに予想される。一方、西部太平洋熱帯域の海面水温は平年並と予想されるが、数値予報モデルではフィリピン付近からインドネシア付近で降水量が少ない。このため、この領域が強い収束域となり、対流活動は不活発と考えられる。また、インド洋も広く収束域となるが、ベンガル湾やアラビア海では降水量が多く予想される。アジアモンスーンに伴う対流活動を監視するSAMOIの活動度も一応負偏差となるが偏差は小さく、対流活動は若干弱い程度に考えたい。

3か月平均の200hPa流線関数偏差は、ユーラシア大陸で低気圧性偏差となるが、日本の南岸を中心とする高気圧性偏差が予想される。850hPa流線関数偏差も日本の南海上からインド洋にかけ高気圧性偏差となる見込み。このため、北半球循環場に見られるようにZ500ではサブハイ強く、地上でも日本の南海上を中心にして太平洋高気圧が強い予想となる。ただし、日本の南岸で上、下層共に高気圧性偏差の構造となる循環場の成因について、熱帯起源に対する直接的な応答とは考えにくい。また、数値予報モデルのメンバー間で位相にバラつきが大きく、中・高緯度における波東伝播によるともいえず、不確定性が大きい。このため、太平洋高気圧が西へ強く張り出す可能性は高いが、循環場の予想図に見られるような8、9月を中心とした北への強い張り出しが不確実。

ただし、熱帯域の海面水温は全球的に正偏差となつており、モデルでは大気が加熱され、高偏差確率で見られるようになる可能性は大きいと考える。この一部が日本の南岸にかかることから、南ほど高温の可能性は大きいと考える。

一方、これまでの循環場の実況で見られるように極付近で正偏差、その南で負偏差という場が続いている。これまでの循環場の予想のように日本の北が負偏差となることは十分考えられる。特に、7月については北海道に負の高偏差がかかるため、北日本に寒気が南下しやすいと考える。

なお、数値予報資料は西部太平洋熱帯域のシグナルが小さく、確率などはOCNやCCAも参考に考

える。

【天候のイメージ】 7月：太平洋高気圧は、北ではなく西へ強く張り出すべーション。一方、オホーツク海高気圧は平年より弱めで、現れても持続するようなパターンではない。北から寒気が南下して北日本が低圧部となり、北日本中心に前線の影響を受けやすいと考える。OCNやCCAだけでなく数値予報ガイダンスも北日本で多雨を予想しており採用したい。天候は、平年と同様に、南西諸島では晴れの日が多く、東・西日本は前半晴りや雨の日多く、後半晴れの日多い。北日本では前線の影響で平年に比べ曇りや雨の日が多い。

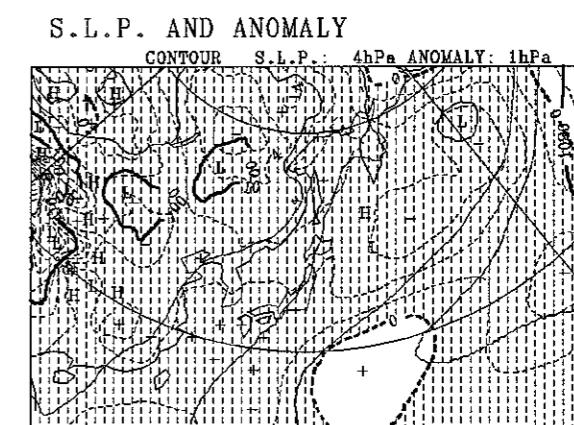
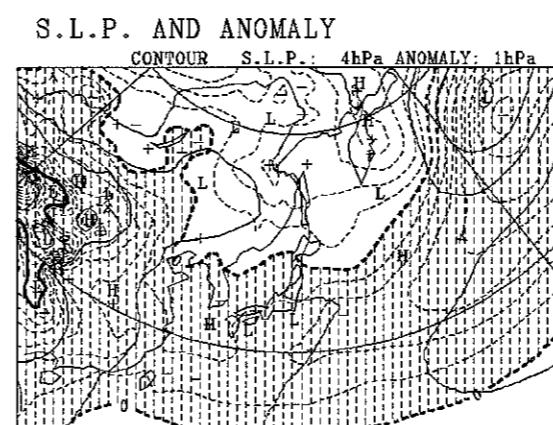
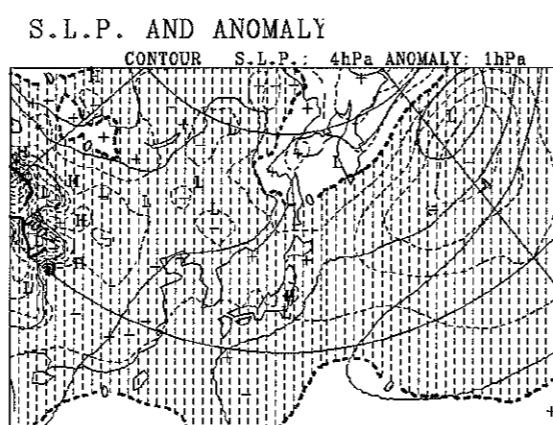
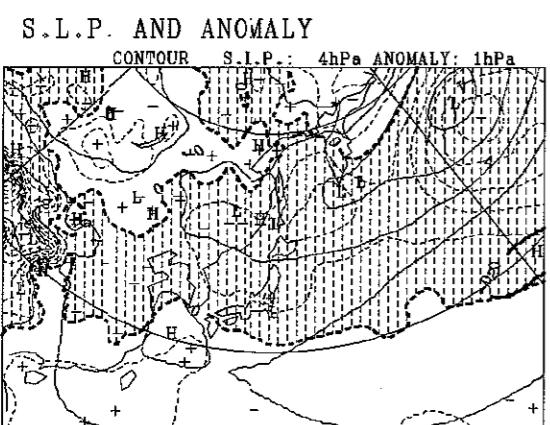
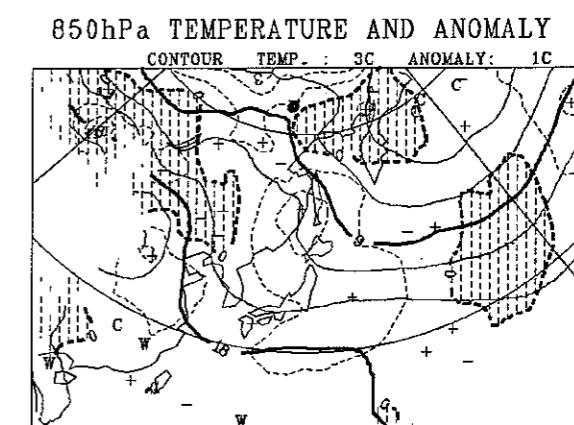
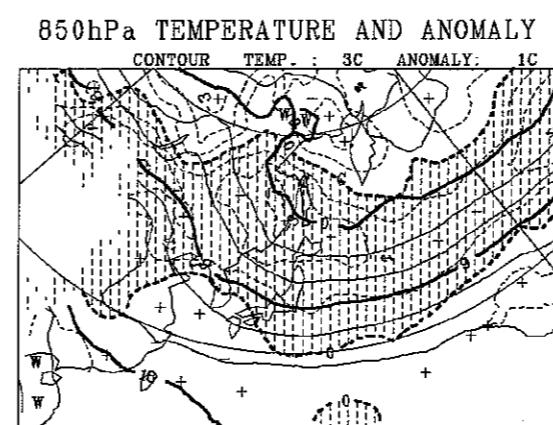
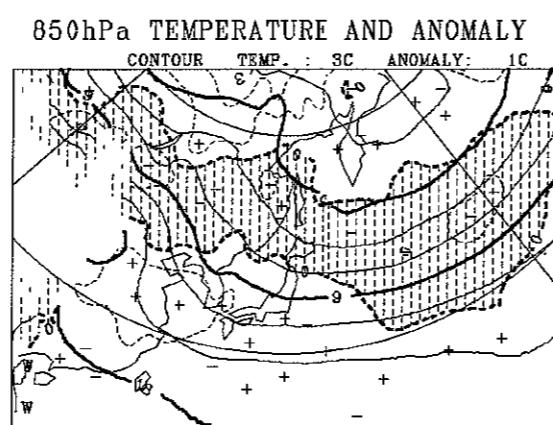
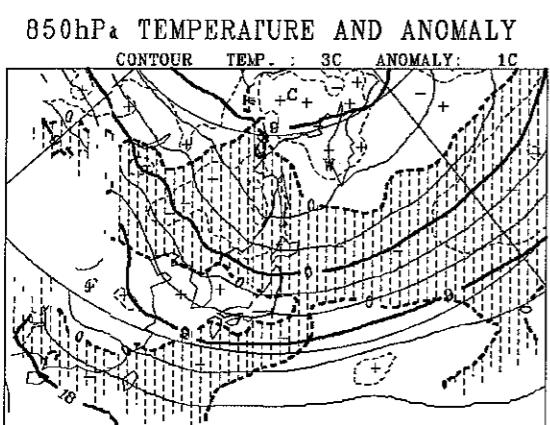
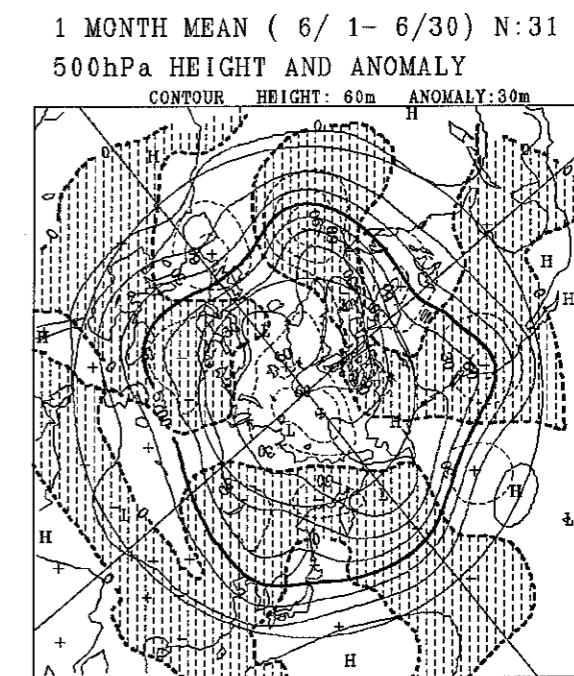
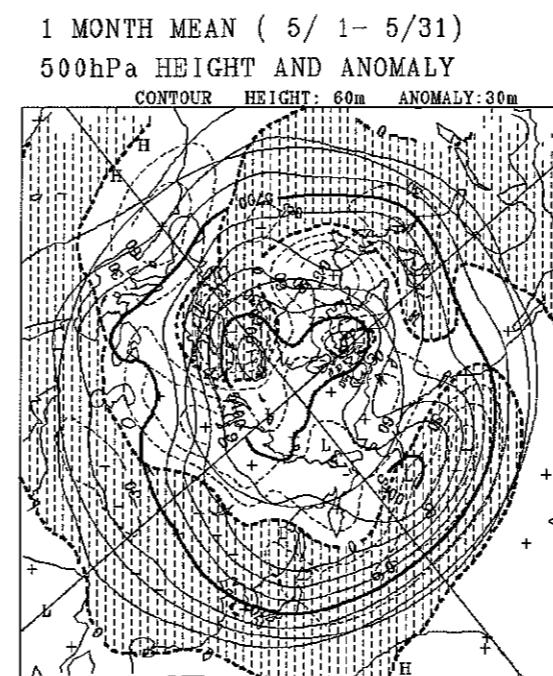
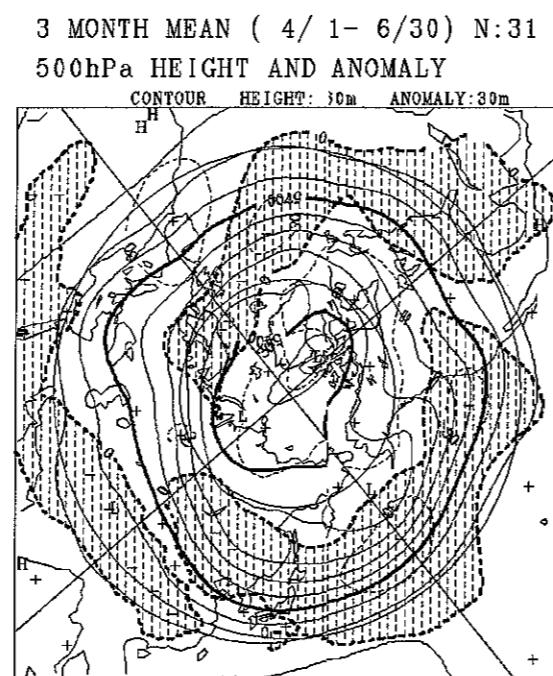
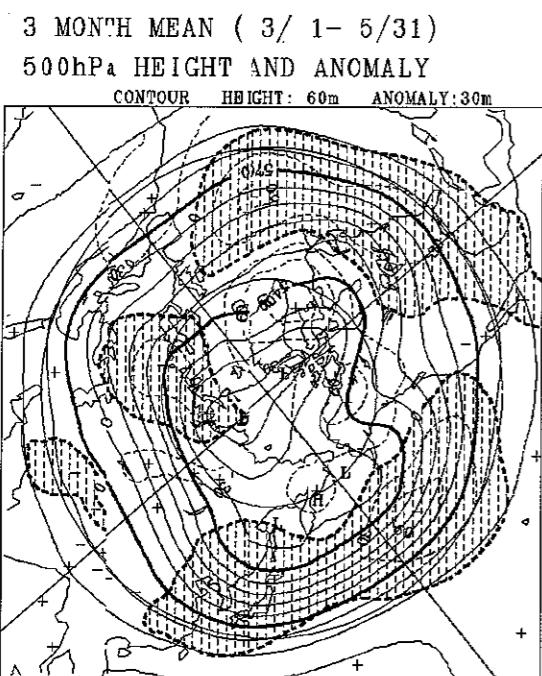
8月：Z500予想図や地上の予想図では太平洋高気圧は北へも強く張り出しえど予想となつてている。850hPa流線関数偏差等が日本の南海上で強まるごとにに対応していると思われ、全面的に採用するわけには行かない。OCNやCCAで傾向が現れているものは採用する。天候は、全国的に平年と同様に太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多い。北・東日本では寒気の影響を受け、一時雨や雷雨。

9月：8月に引き続き太平洋高気圧は強い予想で、数値予報ガイダンスでは全国高温となり、西日本や南西諸島で多雨が予想される。8月と同様に太平洋高気圧の強い北への張り出しは割り引いて考えるが、OCNやCCAでも全国的に高温傾向は出しており採用したい。天候は、全国的に太平洋高気圧に覆われ残暑の厳しい時期があるが、秋雨前線の影響で天気のぐずつく時期もある見込み。
梅雨明け、台風：梅雨明けの遅速についてのシグナルはなく予報しない。台風も同様。

3か月平均：【気温】OCNは北日本：並傾向、その他：高温傾向。CCAは東・西日本、南西諸島：高温。数値予報ガイダンスは北日本：並～高温、その他：高温。【降水量】OCNは北日本日本海側：多雨傾向、北日本太平洋側、東日本：並傾向、西日本太平洋側：並～少雨傾向、南西諸島：並～多雨傾向。CCAは北日本：多雨、東・西日本日本海側：並傾向、西日本太平洋側：並～少雨傾向。数値予報ガイダンスは北日本、南西諸島：多雨傾向、東日本：並傾向、西日本：並～多雨。
7月：【気温】OCNは北・西日本：高温傾向、東日本、南西諸島：並～高温傾向。CCAは西日本、南西諸島：高温。数値予報ガイダンスは北日本：気候値に近い並、東日本、南西諸島：高温、西日本：並。【降水量】OCNは北日本、東日本太平洋側：多雨傾向。CCAは北日本、東・西日本日本海側：並～多雨傾向、南西諸島：少雨傾向。数値予報ガイダンスは東日本太平洋側を除き：並～多雨傾向。
8月：【気温】OCNは北日本：低温傾向、東・西日本：並～高温傾向、南西諸島：高温傾向。CCAは北日本：並～低温傾向、西日本、南西諸島：高温。数値予報ガイダンスは北、西日本：並～高温、その他：高温。【降水量】OCNは北・東日本日本海側：並～多雨傾向、東日本太平洋側：並～少雨傾向。CCAは北日本、東日本日本海側：多雨傾向、東日本太平洋側：並～多雨傾向。数値予報ガイダンスは北日本：並～多雨傾向、西日本、南西諸島：多雨傾向。
9月：【気温】OCNは北・東日本：並～高温傾向、西日本、南西諸島：高温。CCAは全国：高温。数値予報ガイダンスは全国：高温。【降水量】OCNは東日本太平洋側：並傾向、南西諸島：並～多雨傾向。CCAは北・東日本日本海側：少雨傾向、西日本太平洋側：並～少雨傾向、南西諸島：多雨傾向。数値予報ガイダンスは西日本太平洋側：多雨、南西諸島：並～多雨傾向。

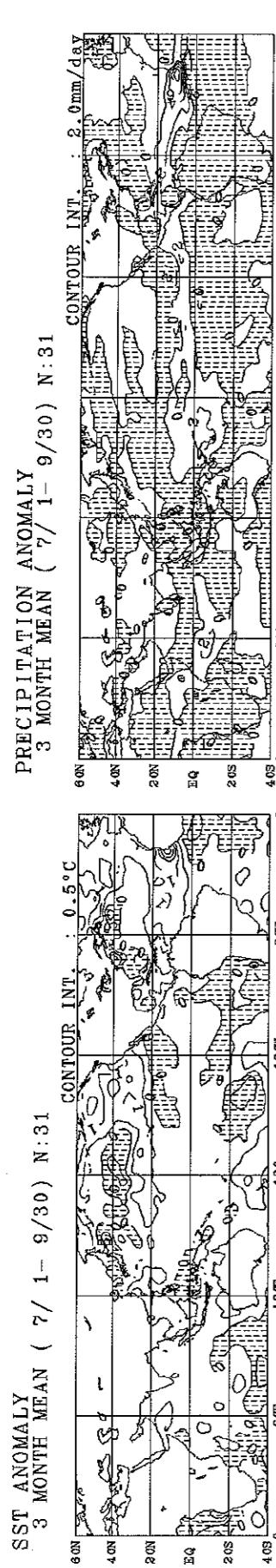
この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

3か月予報資料（3） 実況解析図（一部予報値含む）初期値：2005. 6. 17. 12 UTC

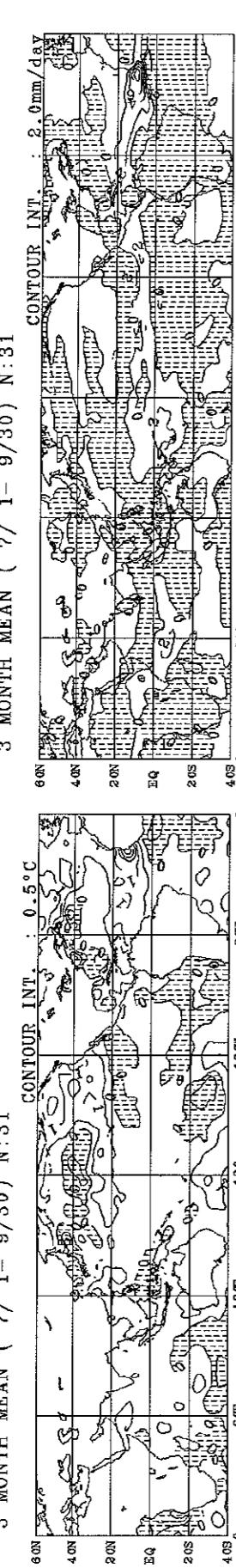


3か月予報資料(4)熱帯・中緯度予想図 初期値:2005.6.17.12UTC

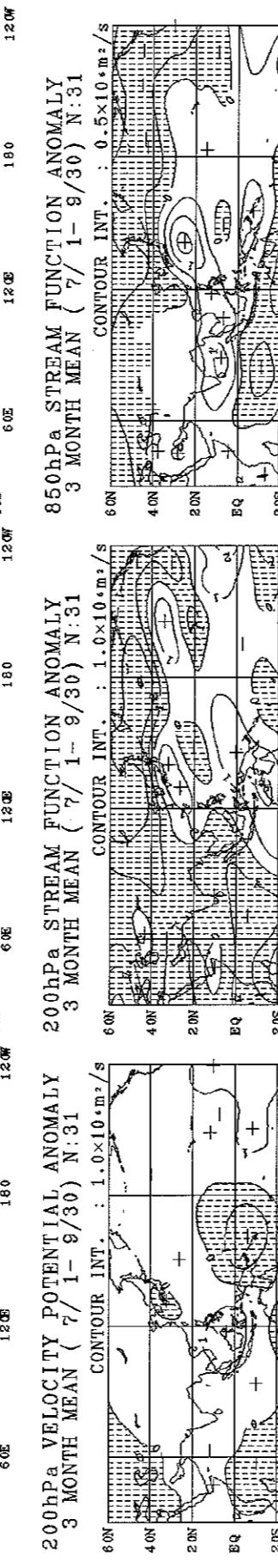
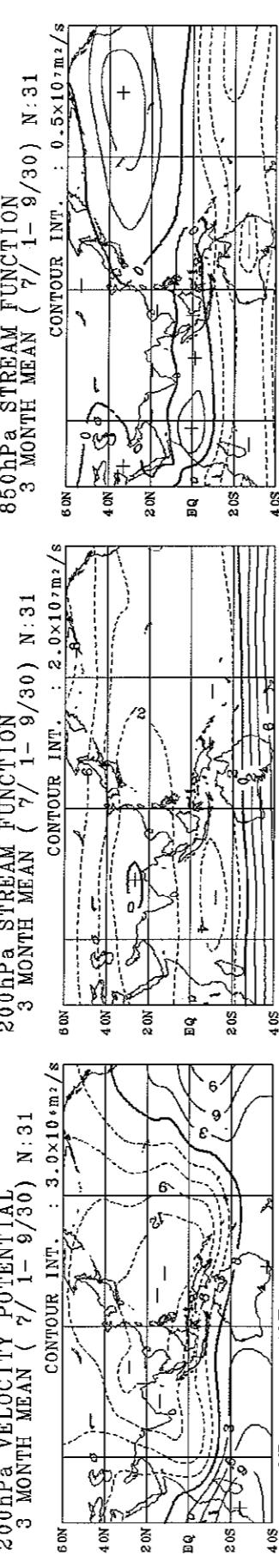
SST ANOMALY (7/1-9/30) N:31



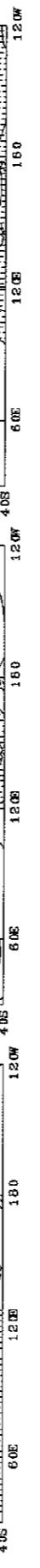
3 MONTH MEAN (7/1-9/30) N:31



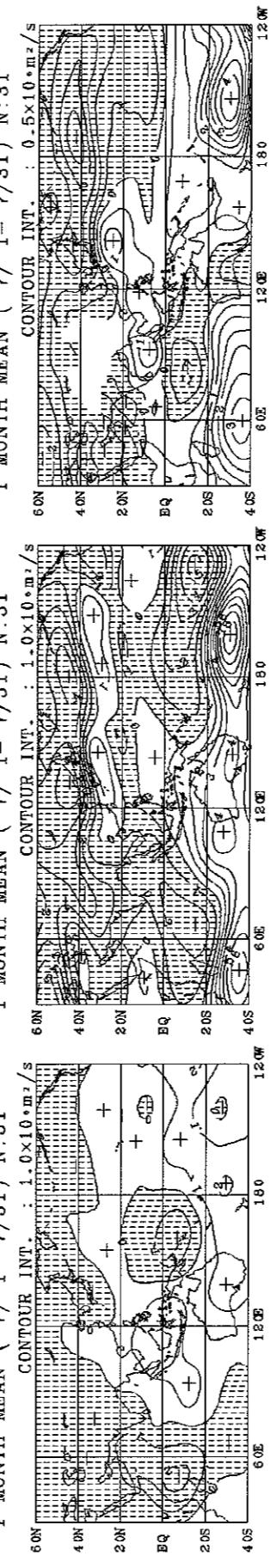
200hPa VELOCITY POTENTIAL ANOMALY



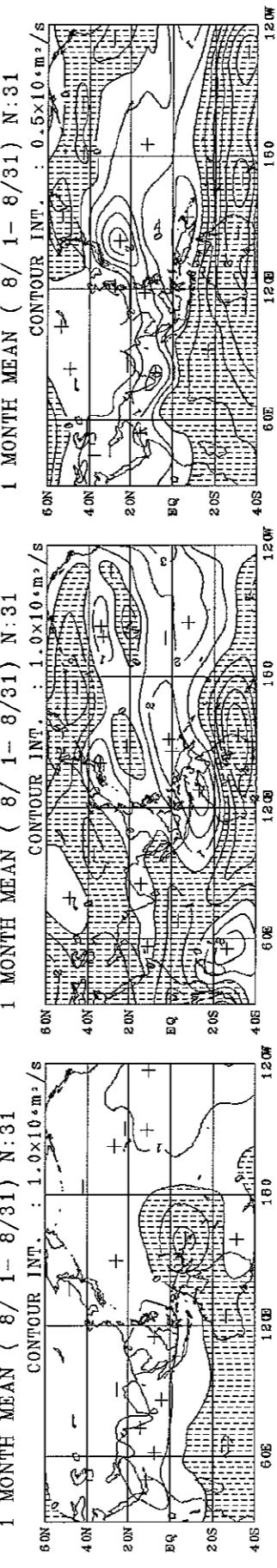
200hPa STREAM FUNCTION ANOMALY



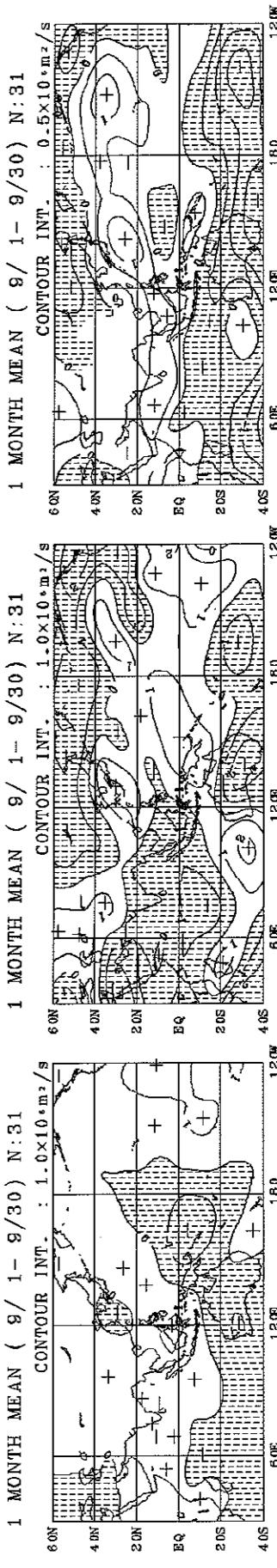
3 MONTH MEAN (7/1-9/30) N:31



1 MONTH MEAN (7/1-7/31) N:31



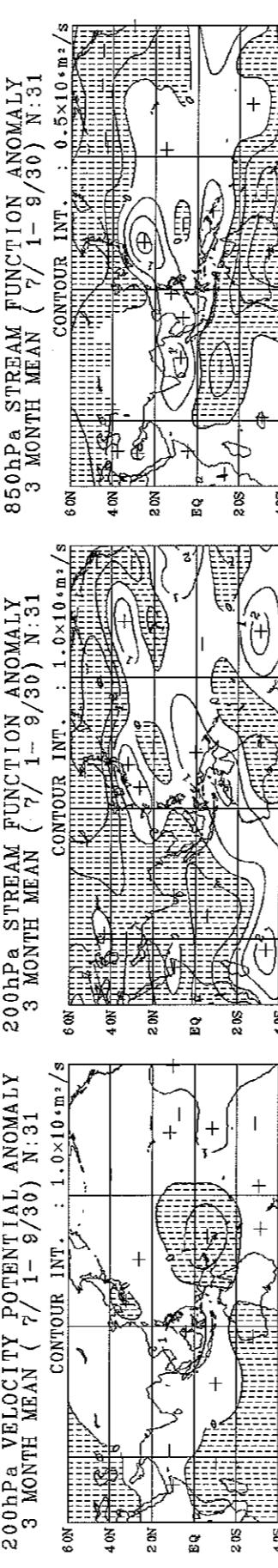
1 MONTH MEAN (8/1-8/31) N:31



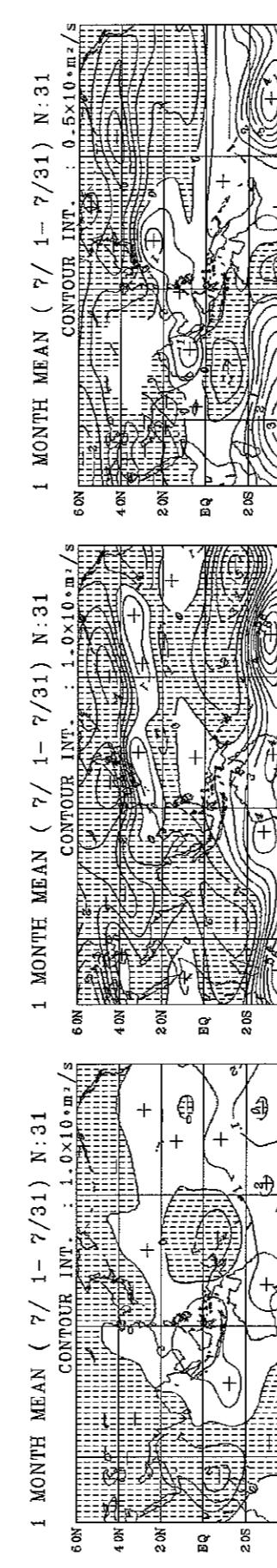
1 MONTH MEAN (8/1-9/30) N:31



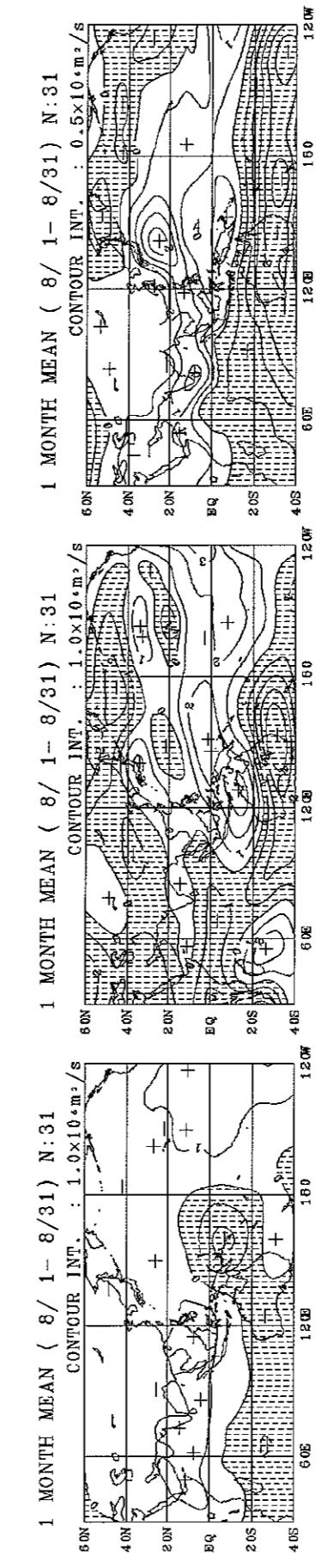
PRECIPITATION ANOMALY (7/1-9/30) N:31



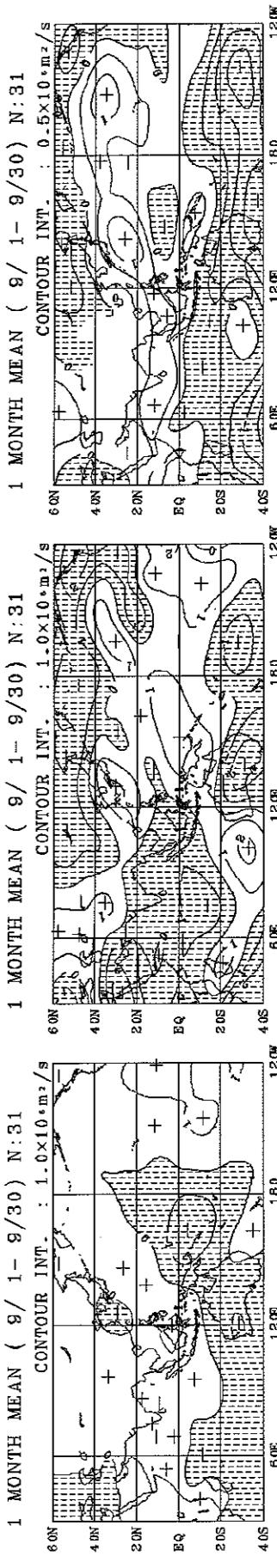
1 MONTH MEAN (7/1-7/31) N:31



1 MONTH MEAN (8/1-8/31) N:31



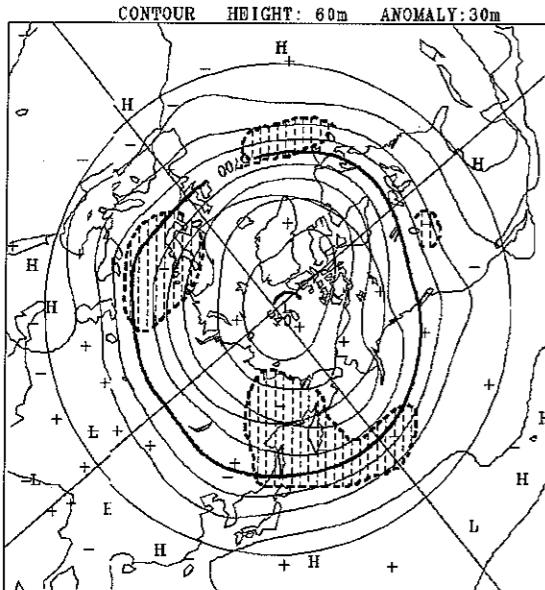
1 MONTH MEAN (8/1-9/30) N:31



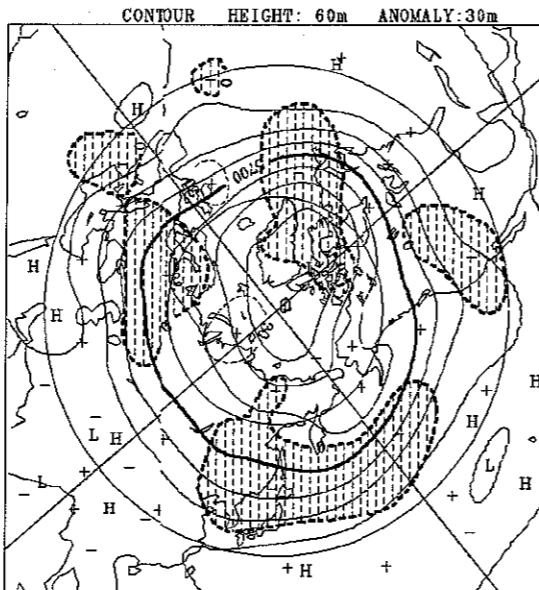
3か月予報資料（5） 北半球予想図

初期値：2005. 6. 17. 12 UTC

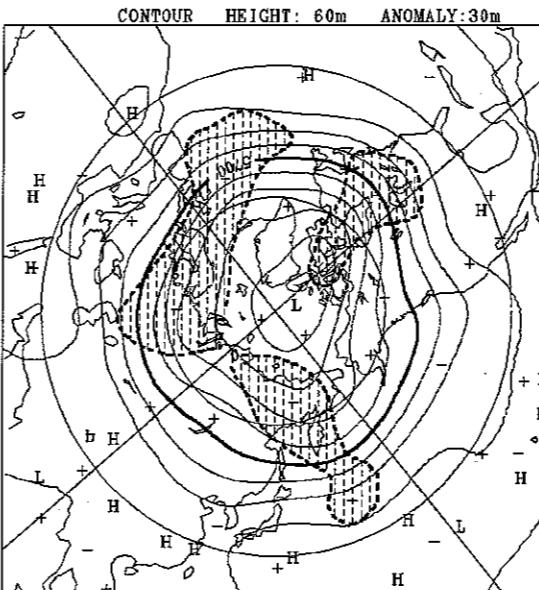
3 MONTH MEAN (7/ 1- 9/30) N:31
500hPa HEIGHT AND ANOMALY



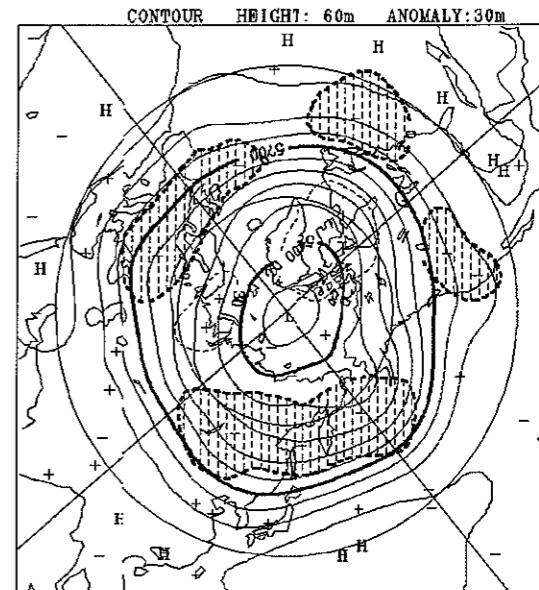
1 MONTH MEAN (7/ 1- 7/31) N:31
500hPa HEIGHT AND ANOMALY



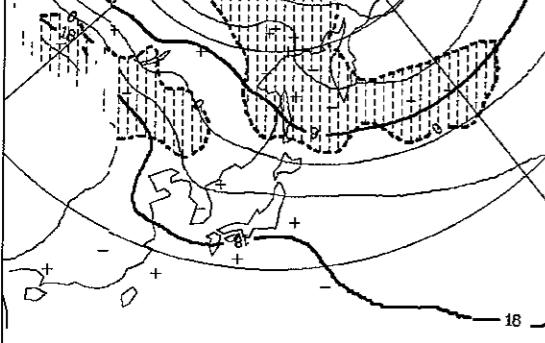
1 MONTH MEAN (8/ 1- 8/31) N:31
500hPa HEIGHT AND ANOMALY



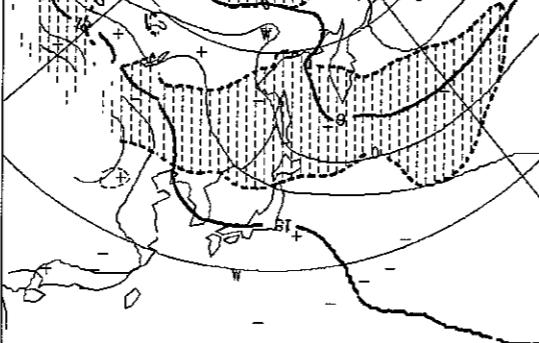
1 MONTH MEAN (9/ 1- 9/30) N:31
500hPa HEIGHT AND ANOMALY



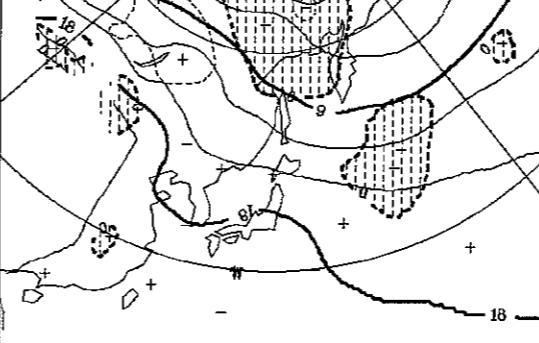
850hPa TEMPERATURE AND ANOMALY
CONTOUR TEMP.: 3C ANOMALY: 1C



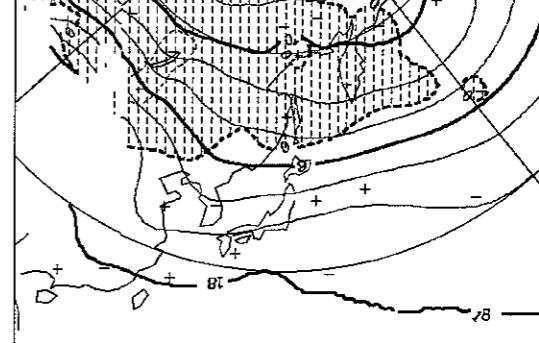
850hPa TEMPERATURE AND ANOMALY
CONTOUR TEMP.: 3C ANOMALY: 1C



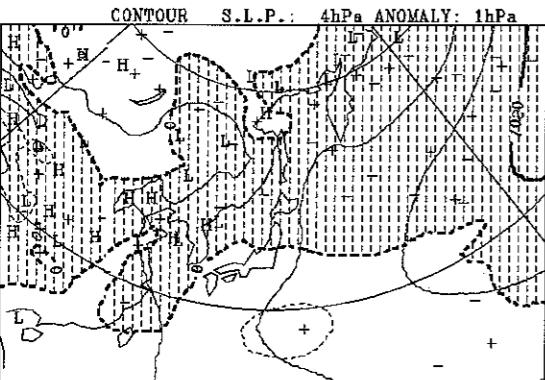
850hPa TEMPERATURE AND ANOMALY
CONTOUR TEMP.: 3C ANOMALY: 1C



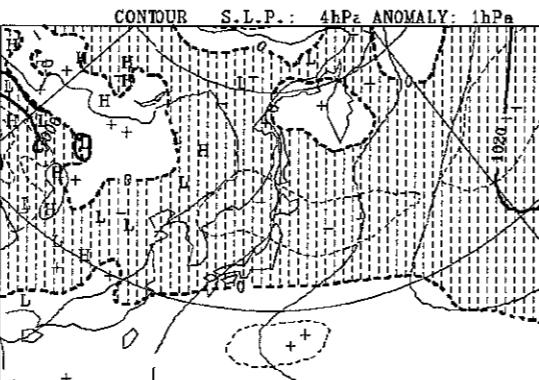
850hPa TEMPERATURE AND ANOMALY
CONTOUR TEMP.: 3C ANOMALY: 1C



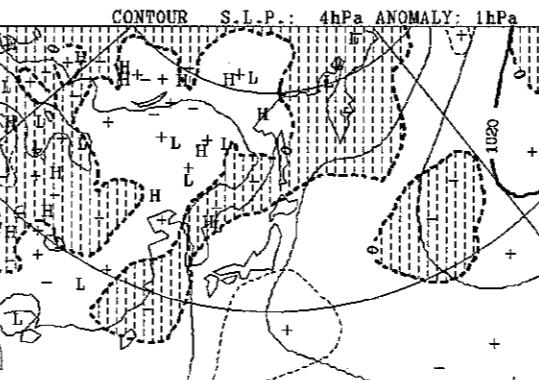
S.L.P. AND ANOMALY



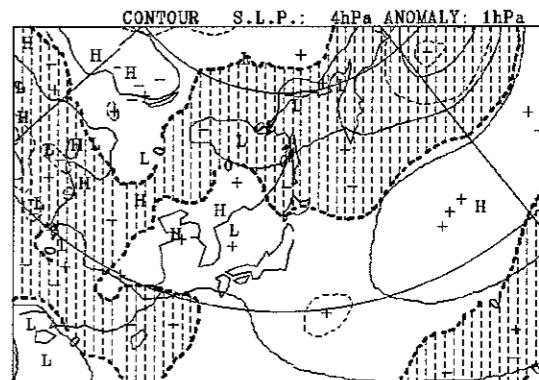
S.L.P. AND ANOMALY



S.L.P. AND ANOMALY

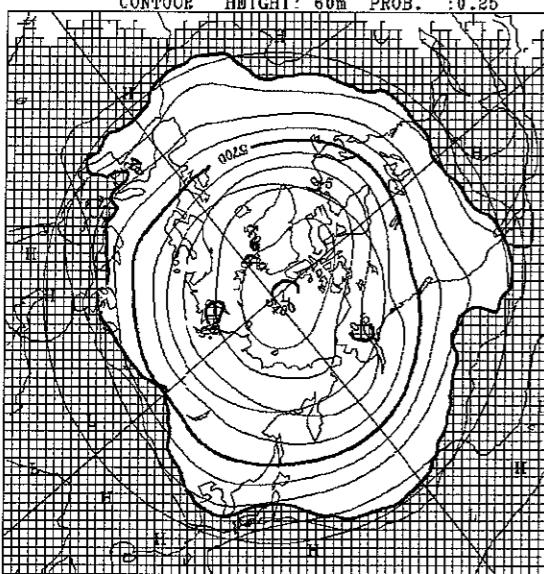


S.L.P. AND ANOMALY

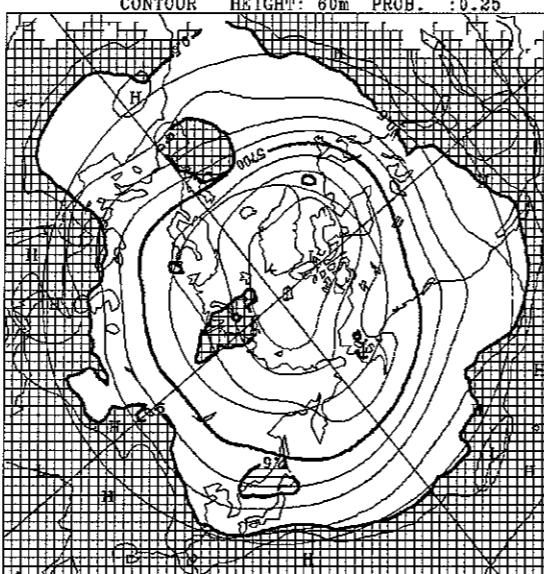


3か月予報資料(6) 高偏差確率・ヒストグラム 初期値: 2005. 6. 17. 12 UTC

3 MONTH MEAN (7/ 1- 9/30) N:31
PROB. OF H.ANOMALY AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT: 60m PROB. :0.25



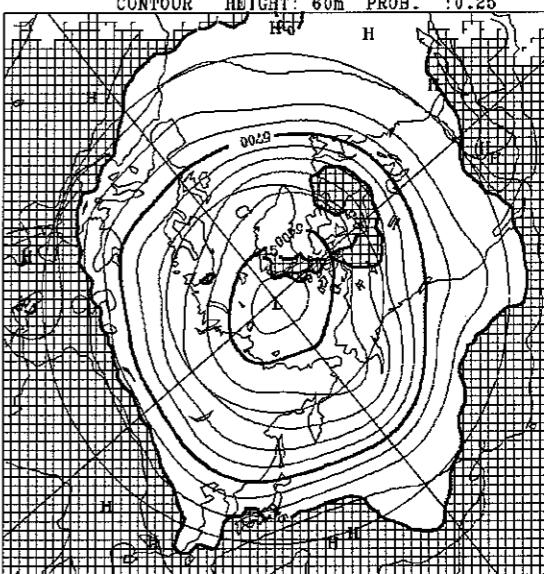
1 MONTH MEAN (7/ 1- 7/31) N:31
PROB. OF H.ANOMALY AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT: 60m PROB. :0.25



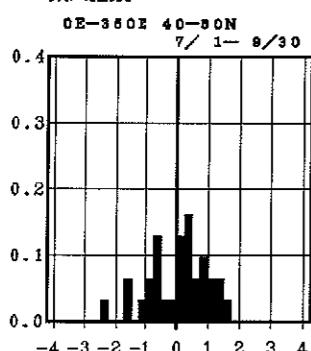
1 MONTH MEAN (8/ 1- 8/31) N:31
PROB. OF H.ANOMALY AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT: 60m PROB. :0.25



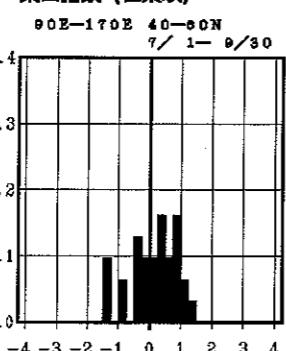
1 MONTH MEAN (9/ 1- 9/30) N:31
PROB. OF H.ANOMALY AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT: 60m PROB. :0.25



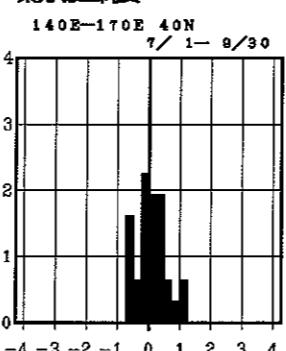
東西指数



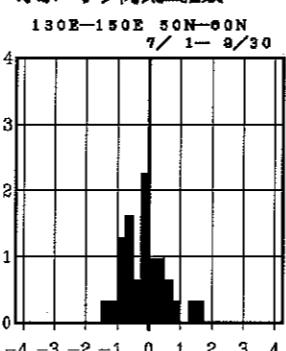
東西指数（極東域）



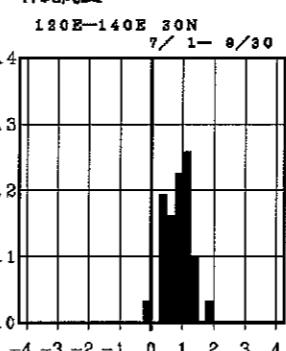
東方海上高度



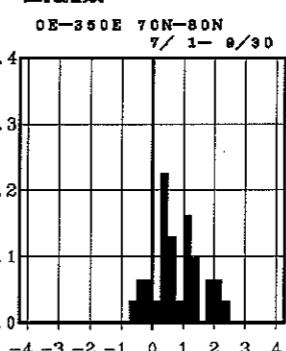
オホーツク高気圧指数



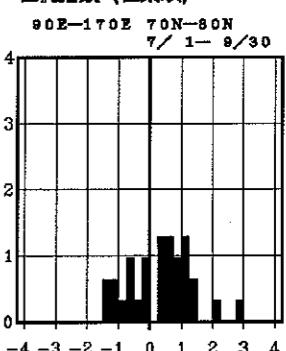
沖縄高度



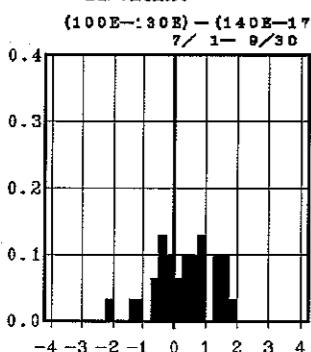
極渦指数



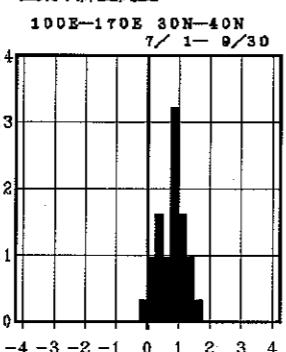
極渦指数（極東域）



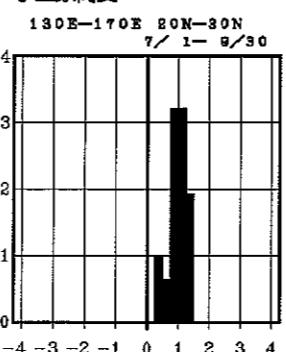
40度西谷指数



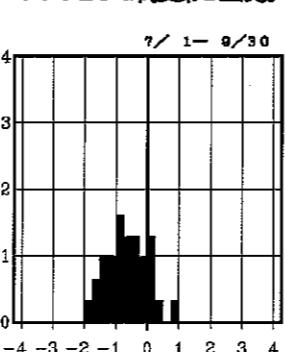
極東中緯度高度



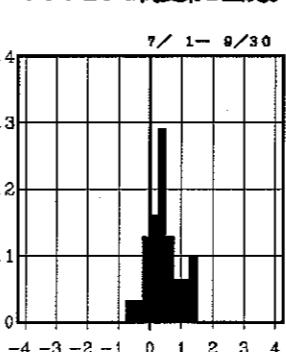
小笠原高度



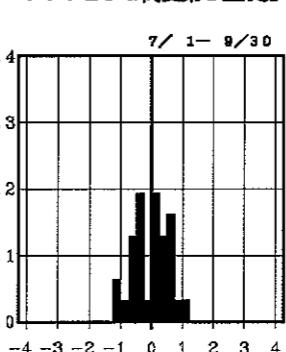
500 hPa高度第1主成分



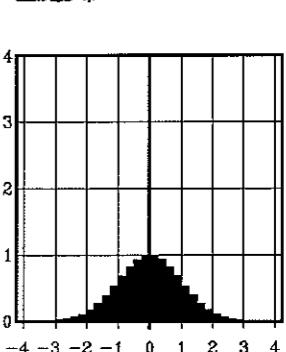
500 hPa高度第2主成分



500 hPa高度第3主成分



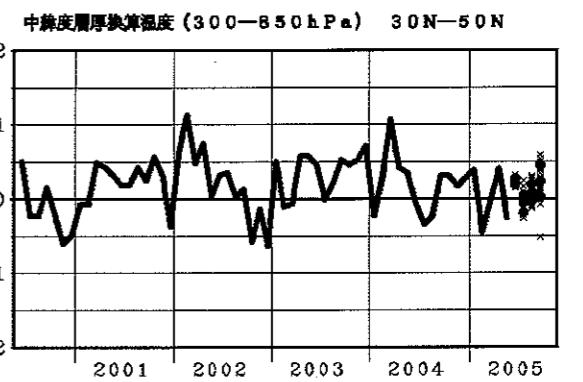
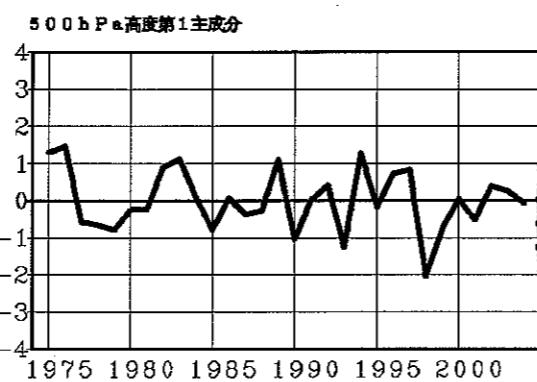
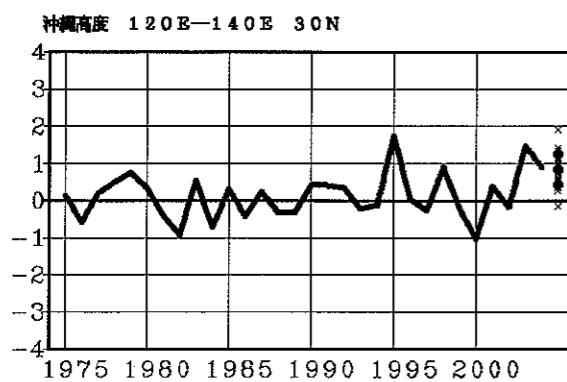
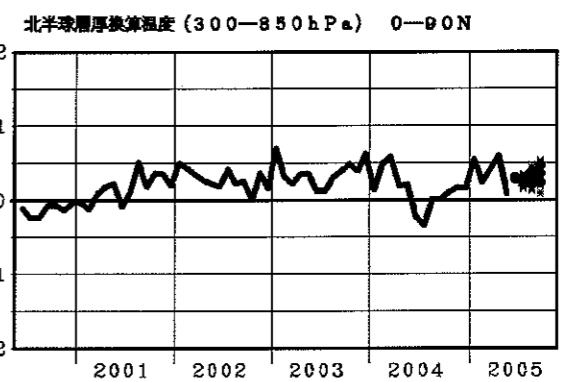
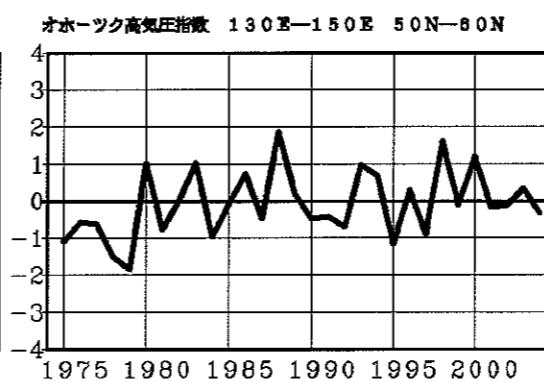
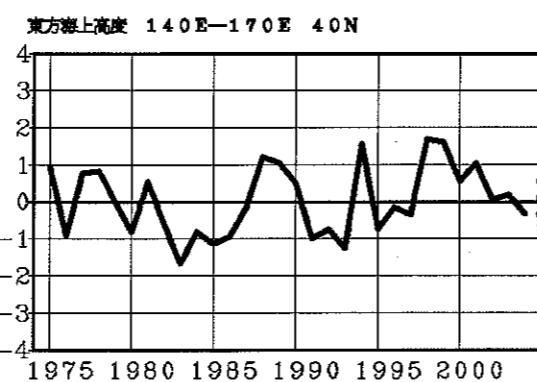
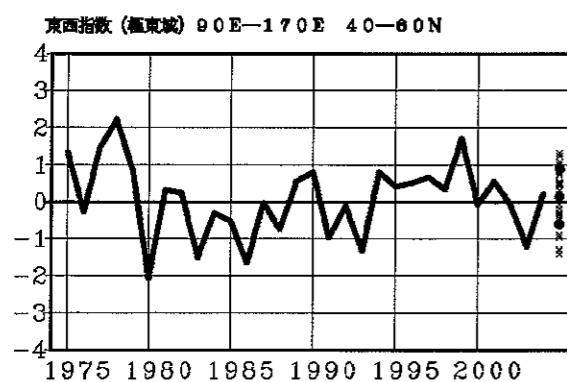
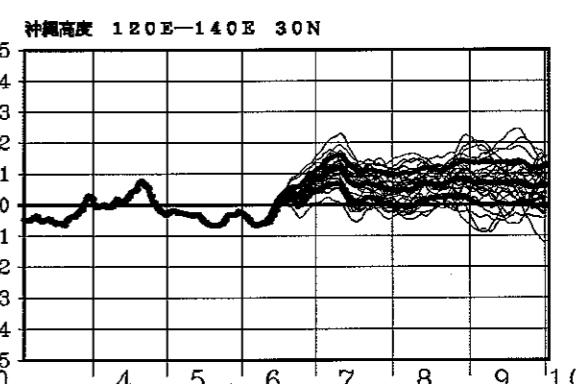
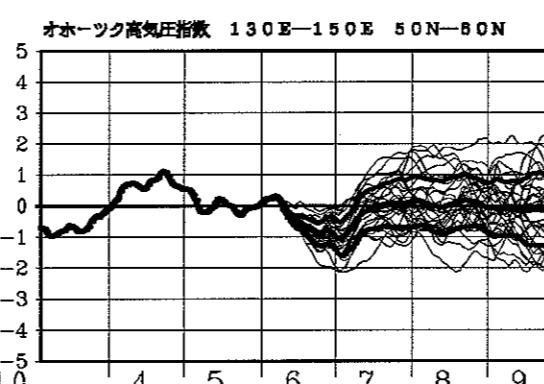
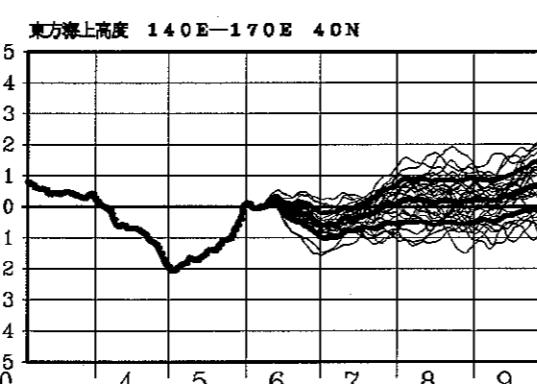
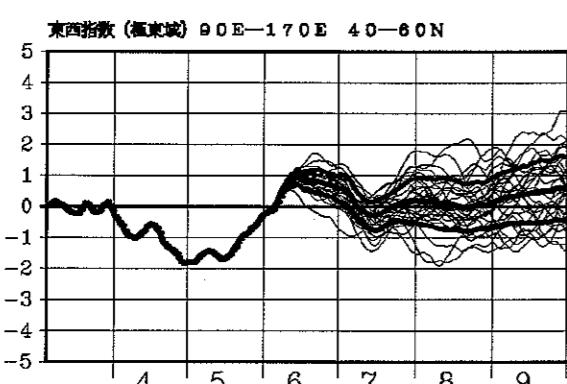
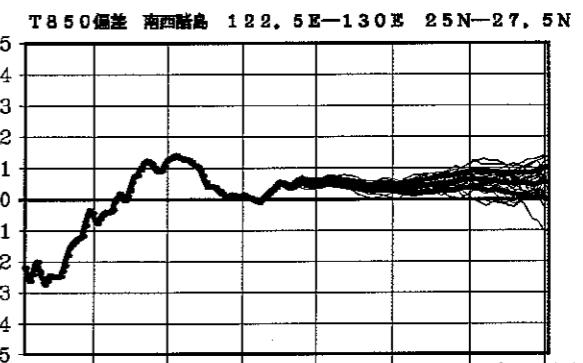
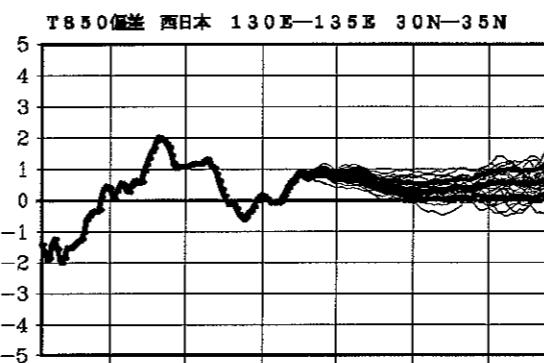
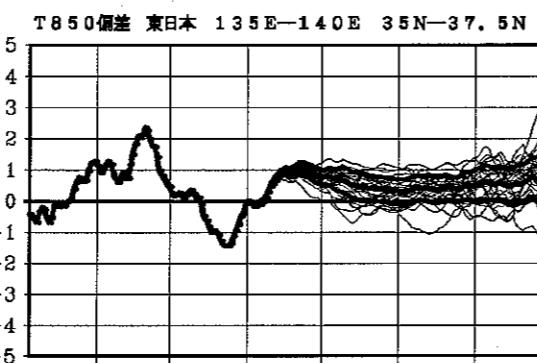
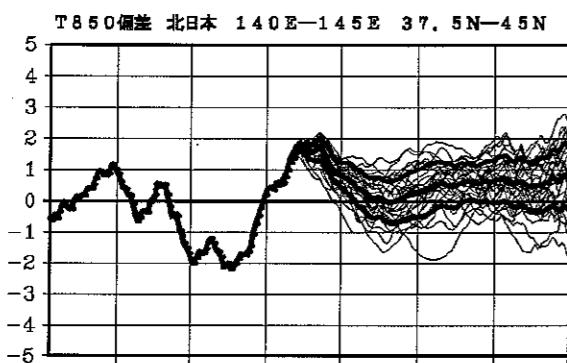
正規分布



3か月予報資料(7)

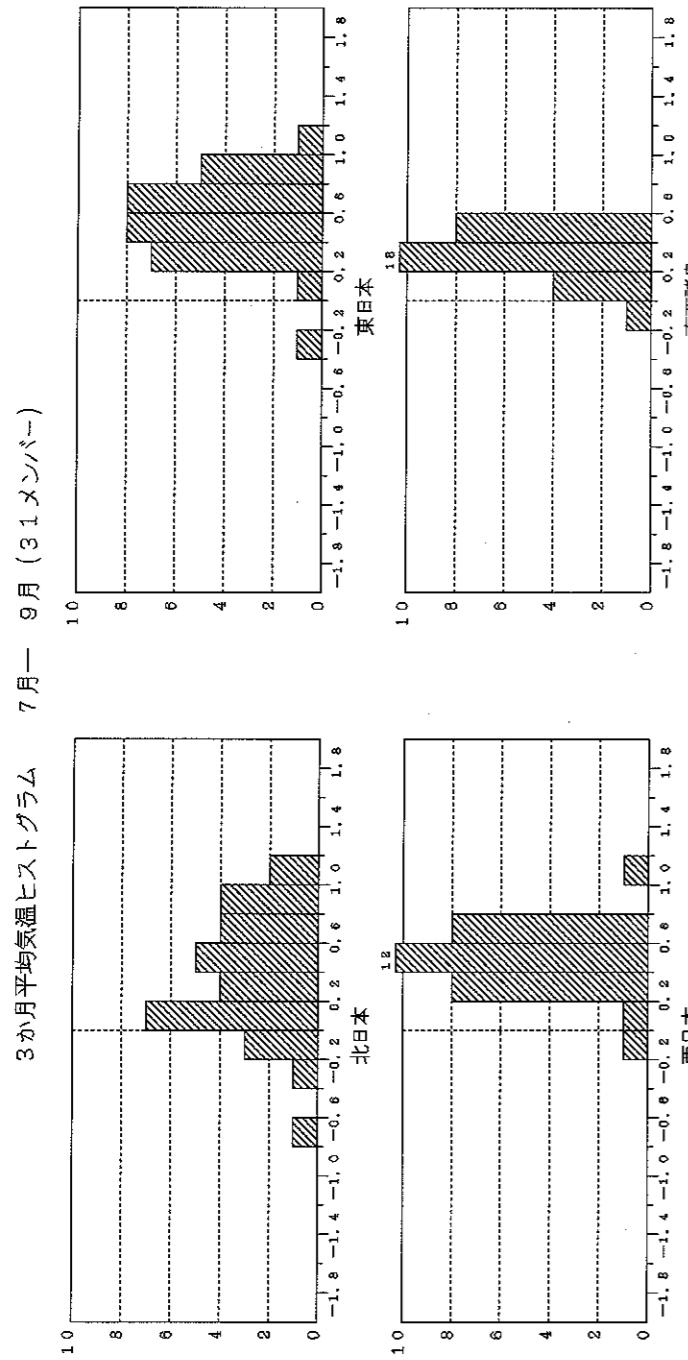
各種指標類時系列図

初期値: 2005. 6. 17. 12 UTC



3か月予報資料(10) 数値予報ガイドンス(ヒストグラム)

初期値: 2005年6月17日 12 UTC



3か月降水量ヒストグラム 7月—9月 (31メンバ)

